

2014. 11. 12 (水)

友だちは永遠か？

難波 功 士

難波です。よろしくお願ひします。打樋先生の方から「チャペルでメッセージをするように、しかも友だちというテーマで」と言われた時には、正直言って少し困りました。私自身がそんなに人付き合いも良くないし、友だちが多いタイプでもないですし、先月の「孤独」というテーマの方が語ることがたくさんあったような気がします。

どういった話をしようかなと思って考えました。いろいろ困っていたのですが、一つ、先週こういう本を見つけました。『友だちは永遠じゃない』。「社会学でつながりを考える」というサブタイトルが付いています。森真一先生です。関学でも教えておられるので知っている人もいるかもしれませんが、森先生は関学の社会学部の卒業生だし、こここの大学院を出て、今、追手門学院大学で社会学を教えられている方です。ちくまのプライマリ一新书という、高校生向けに書かれた読みやすい本ですので、ここには社会学部の人が多いと思いますから、ぜひ一度読んでもらいたいと思います。この本がとてもおもしろかったので、これを紹介しながら、この本をネタにしながらかかしゃべろうかなと思ってます。

「社会学でつながりを考える」とあります。「社会学者って何をする人だ」って言われて

も、ちょっと答えに困ります。「社会を研究する」というふうに答えてみても、「じゃあその社会とは何だ」と言われると、さらに困ります。一つの解答として、この本の中で森先生がおっしゃっているのは、何人かの人が一緒に所に集まって、何らかの関係性を持ちながら協力したり、反発しあいながら一つの事に関わっているような状態があったとすると、それはもう一つの社会であるということです。だから、今この場で、チャペルの時間を一緒に過ごそうと思って集まっている人たちの間にも、すでに一つの社会が成り立っているわけです。終わったらその社会は解散してしまうんですけれども。

社会というものがあるといよりは、できたり、消えたり、できたり、消えたりしながらあり続けるものだというふうに考えていた方がいいんじゃないかと書かれています。そうした議論からめて、友だちについて考えていくと、「友だち」って言うてしまうと、いつも同じメンバーがいて、頻繁に集まって、一緒に盛り上がって楽しく過ごしていなければ友だちじゃないっていうふうに思いがちですが、もう少し軽く考えた方がいいのではないかとことです。その時その時に必要な知人だとか、知り合いをみんな友だちと思えばいいわけですし、ともに何かやろうと

いう、テンポラリーな、一時的な人の集まりがあれば、それは全員友だちでいいのではないかということです。

さらに言いますと、face to face で、面と向かって接して、生身の身体がそこにある人だけが友だちなのではなくて、メディアの向こうにいる人が友だちである場合も多いだろうし、その人と直接面識がなくても、メディア上で知りあっているだけの友だちもいるかもしれません。さらに言いますと、コンテンツの中の登場人物みたいな人も、自分が友だちと思えば、その人からいろいろ得られるものもあるだろうし、教えられることもあるだろうから、そうしたものを含めて全部、歴史上の人物だったり、想像上の人物も、すべて友だちって考えた方がいいのではないかという話が、この本の中ではされています。自分に何かしらの影響なり、力を与えてくれる人がいるとすると、それを全部友だちと考えていい。その関係を永遠に保たなければいけないというよりは、その時その時に立ち現われたり、消えてなくなったりしても、それはしょうがないのではないか、というふうに考えた方が、随分気楽になるのではないかと思います。

それで、もう少し自分のやっていることに引き付けて、何かお話をしようと思っていたのですが、私はご紹介いただいたように、メディア論ですとか広告論を講義してきた人間です。でも、この12月に出す予定の本は、『「就活」の社会史』というタイトルで、祥伝社新書という所から出します。この本には、「大学は出たけれど・・・」というサブタイトルが付いていますので、大学生に向かって嫌がらせをしているような本です。100年ぐらい前、サイレントムービーの時代から、

就職活動に悩んでいる大学生というのはずっとメディア上で描かれ続けています。この100年間の映画ですとか、テレビドラマですとか、CM ですとか、いろんなところで就活生の姿は描かれているし、雑誌や新聞で就職活動、就活生のことは語られ、論じられているので、それらを一世紀のスパンで掘り起こしたらどんなことが見えてくるのか、というような本がもうすぐ出ます。

そのプロセスの中で、最近の就活事情をいちばん反映しているのは、就職活動生を描いたCM だと思ったのです。本の最後の方で2本のCM の紹介と、その分析を挙げていまして、それをみんなに見てもらったら、大学での友だち関係ってどういうことなのか、友だちってどういうことなのかを考えるヒントになると思ったので、そのCM を見せたくて、PC とプロジェクターを用意していただきました。それを今からお見せします。少し長くて、90秒ありますが見てください。

【東京ガス企業CM：家族の絆・母からのエール編】

今年の2月に、東京ガスですから関東ローカルでオンエアされたCM なので、見たことのない人も多いと思いますけれども、就職活動をしている娘を励ますお母さん。娘も頑張っているけど、なかなか結果にはつながらないという内容ですね。皆さんどう思われたかわからないですけども、私、最初見た時は、「お母さんにもチーズケーキ買ってあげればいいのに」と思いました。

そこに5年生の顔も見えますけれども、この場には1年生が多いと思うので、まだあまりリアリティ感じないかもしれませんが

が、就活を一度すると、この CM、めちゃくちゃよくわかります。いちばん最後に支えになってくれるのは家族、親、兄弟っていうことですね。友だちが支えになることもあるかもしれないけれども、CM の中でもあったように、まだ内定のない人にまで「やった、俺、内定決まったぞ」みたいな余計な事を LINE で送ってきたりだとか、「頑張れ」と励ましてくれるのですけれども、まあ 5 秒ぐらいで打ち込んだものを返してくるだけで、そんなに頼りになる存在ではないです。そして、就活をやっているうちにだんだん、大学生同士の友だち関係って、組み換わっていったりもします。やはり、就活で最後に頼りになるのは家族なんだろうなあという、こんな CM がありました。

この CM に関して、おもしろいと思ったのは、この CM は今年の 2 月にオンエアされて、3 週間ぐらいで打ち切りになっているんです。打ち切りになった背景には、いろんな抗議というか、視聴者からの反発があったようです。話が悲しすぎる、暗すぎる。ちょうど 2 月ですから、就職活動始まった時期に、こんなのを見せられて…、と思った人もいるようです。来年から採用スケジュールが変わりますが、実質そんなに変わらないと私は思いますけど、まあそんな声があったり。就職氷河期も 20 年続いていますから、就活に関してトラウマを抱いている人は世の中にたくさんいるので、そういう人たちが反応して、なんであんなにひどいもの、ひどいというか、つらい気持ちになるものを流すのだという抗議が何本か東京ガスに入って、まあそれも一つの原因なんでしょう、3 週間ぐらいでオンエアは終わりました。しかし、早めに終わったことでまた話題になって、動画

投稿サイト等々では、ものすごく再生され、話題となった CM のようです。

ちょっと余計な話しをしてしまいました。さらに見せるかどうか迷いましたけど、もう 1 本だけ CM をお見せします。

東京ガスの CM に多くの反応があったっていうのは、やはり今出てきた女優さんがうまかったからだと思うんです。就活生としての演技にもものすごくリアリティあって、最初の 60 秒ぐらいで、「ああ、自分もそうだった」とか「自分もそうだ」とかぐいぐい引きずり込まれて行って、「なんとか、あの女子大生、希望のところに内定してくれればいいのにな」という気になっていたのに、ああいいうドンデン返しがあります。最後はちょっとは気を取り直しますけど、そういう暗い終わり方をしていることに対する反発があった。でも、そこまで見る人に感情移入させるといのは、やはりあの女優さんがうまかったからなんでしょう。

それを「友だち」と言っているのか分かりませんが、CM のあの人の気持ちはわかるとか、あの子のことを応援したいという気持ちになっていたがために、「ええ、なんでそんな、あんな終わり方するの」という感想が残ったんだろうと思います。あの女優さんのこと、知っているという人いますか？

いませんか。私も東京ガスの CM で初めて見かけたのですが、気になって、気になり始めるといろいろな所で目につくもんですね。もう 1 本、別のところで、この女優さんが出ていた CM を持ってきましたのでお見せします。

【日清食品 CM : SAMURAI FUJIYAMA CUPNOODLE・壁ドン編】

余談ですが、東京ガスのCMでひどい目にあっていた就活生が、満員電車でオジサンに壁ドンされている女の子と同じ人だと気がついた時、とても、この話を誰かにしたいと思ったんですけど、今私は特別研究期間中で、講義科目は担当していないので、話をする場所がなかったので、この場でさせてもらいました。この女優さん、岸井ゆきのさんという方なんですけど、東京ガスのCMがほぼデビュー作だったようで、あのCMの中では岸井っていう名前が出ていて、本当にリアルな女子大生像を演じていたと思います。それ以降、他のCMで見かけたり、いろいろなドラマや映画で見かけたりします。KANA-BOONの「ないものねだり」という曲の、ミュージックビデオにも出てました。話が逸れましたので、戻します。

今、カップヌードルのCMを見てもらったのも、何を言いたかったかと言いますと、最初に話をしたように、森真一さんの本でも書かれていたことですが、漫画だとかそういうコンテンツの中の誰かに対して、ものすごく感情移入することもあるし、そういう人から励まされることも、教えられることもあるから、そういう存在も、もう友だちって考えちゃっていいのではないか、というようなことを言いたかったのです。じつは、『「就活」の社会史』という本の中で使ったのは、「サムライ・フジヤマ・カップヌードル」シリーズの前にやっていた、「SURVIVE!」というカップヌードルのシリーズCM中の就職氷河期編、雪の中をリクルートスーツ姿の就活生たちが歩いていって、シロクマの面接官に脅されるみたいなのがあったんですけども、そっこのCMについて書いてるんですが、でも今回は、岸井さんつながりで「壁

ドン編」をお見せしました。

結局、何が言いたかったかって言いますと、そういう想像上のというか、コンテンツの中にいる架空の人物であっても、それを友だちと見ていいってことです。そういう人たちに対して一方的であっても、いろいろ友だち感情を持つのもアリなんだと考えていると、関学に着任して以来、いちばん多く歌う機会のあった讚美歌のことを思い出しました。493番の「いつくしみ深き」の歌です。その歌詞は「いつくしみ深き友なるイエスは…」と始まっています。イエス・キリストのことを友と呼んでいいと言ってるのが、なんかおもしろくて。その方を友だち呼びわりしていいのかわからないですし、まあ遠い過去の人ですし、別に目の前にいて一緒に喫茶店行くわけでもないし、飲み会行くわけでもないし、バーベキューするわけでもないイエスキリストさんなんですけど、その人のことを友だちと見なし、その人のことを思い、その人の言葉に時々耳を傾けることによっていろいろ得ることがあるとすれば、それはそれで「友だち」ということでいいと思います。そういう友だち関係が、どんどん、いろいろと広がっていくのは、非常にいいことだろうと思います。私も大学時代、そんなに人とはつきあわず、図書館で本ばかり読んでいたような生活をしていましたが、それはそれで豊かな時間が過ごせていたと思います。その時、本を通じていろいろ関わった人は、私は歴史学専攻でしたから過去の人であったり、またその本を書いた人だったり、本の中の人だったりするのですが、それはそれで自分を豊かにしてくれたという記憶があります。

皆さんは、大学生活においてちゃんと友だ

ちつとくれないとダメだみたいと思うかもしれませんが、大学での友人関係は、就活の時期になったら組み換わる場合が多いです。嫌なことと言うようですが、その程度のもので、あまり特別に、友だち友だちと思わずに、一人でぼつんと講義を受けていても、教員の話からインスパイアされることがあったり、一人図書館にこもって本読んでいて、おもしろいなど思ったり、図書館で映画のDVD見て、いろいろ感じることもあったりとか、そういうのが非常に大事なことのような気がします。

そうしたコンテンツの中の一つとして、聖書があってもいいかもしれないですし、そうやって関わっていく「友だち」の一人に、イエス・キリストさんという人がいてもいいというか、こうしたミッションスクールに入っただけで、チャペルアワーのような機会があるのは、たいへんいいことだと思ってほしいのです。

私はそうやって暗い学生生活を過ごしましたが、ちゃんと大学出て就職もしましたし、それ以降ずっと働き続けてなんとか食べても生きています。奥さんや子どもたちはどう思っているか知りませんが、幸せな家庭を築いていると思っています。大学生のこの時期、友だちがいなくても別に関係ないです。大丈夫だと思います。いや、本当に就活の時に友情が壊れるのをたくさん見てきた

ので思うのですが、それまで親友としてつきあってきたから、自分が内定した時には、相手に報告するのは当然だろうと思うのですが、言われた方がまだ内定がなく、切羽詰まった状況だとすると、「私はこんな状態だと知ってて、何でそんなメール、LINE送ってくるの」ってことで、壊れていく友だち関係をたくさん見てきました。もちろん、同じタイミングに同じような会社に内定すると、さらに友情深まったり、また新しい友情が生まれたりもするのですが、でも、大学1年の頃の友だち関係というのは、わりとものすごくいいものだと思います。もちろん、一緒にゼミやったりクラブやったりして、強い人間関係が築けて、就活の結果どうあろうが壊れない友だち関係が成り立つ場合もあるとは思いますが。

でも、やはりそれは移ろいやすいものから、それをあまり大ごとには考えない方がいいと思います。もちろん、テストの前に情報交換したりする人間関係は必要なのかもしれませんが、でもそういうことよりも、聖書を含めいろんな本を読んだり、こういう機会にいろんな人の話を聞くことの方が、大事なんでしょうなと思っています。それだけを言いたくて今日は来ました。話が散漫になってしまいましたけど、私の方からは以上です。

(社会学部教授)